

☆獣医学系大学の卒業生の進路動向についての分析

1. カリキュラムと進路動向の関係

- ・アンケート結果からは、カリキュラム内容と進路動向との間に特徴的な関係は読み取れない。
- ・今後、モデル・コア・カリキュラムの整備の進捗が、進路動向の変化に与える影響について注視することが求められる

2. 学生の就職に向けた支援体制

①公務員を志望する学生むけ支援

- ・多くの自治体が一堂に会して行う合同就職説明会の開催
→複数の大学が協働して開催する例もあり
- ・農林水産省、厚生労働省による出張講義
- ・公務員対策講座の開催

②産業動物臨床を希望する学生むけ支援

- ・農業共済組合連合会の就職担当職員による懇談会や情報意見交換会の開催
- ・卒業生による職場説明会の開催

③企業への就職を希望する学生むけ支援

- ・就職支援室の設置、就職活動対策講座の開設
→面接への対応のほか、マナー、リクルートファッション、メイクなどの具体的な内容を含むセミナーの開催など
- ※これらの取組は国公立大学ではあまり行われておらず、私立大学で顕著

◎伴侶動物診療を希望する学生向け支援として、特徴的な取組は見いだせなかった。

3. 各大学の進路動向の経年変化の状況(グラフも参照)

①公務員

- ・ 公務員への就職者の数についてみると、私立4大学(酪農学園大学、北里大学、日本大学、麻布大学)の出身者が多い。
- ・ 岐阜大学、鳥取大学、鹿児島大学、麻布大学で、近年、公務員獣医師になる者の割合が増加傾向にある。特に岐阜大学では、この数年、農林畜産分野への就職者が増えている。

②診療獣医師

- ・ 私立5大学から診療獣医師として就職した者の数が圧倒的で、この5年間、就職者数にも大きな変動が見られない。
- ・ 産業動物を担当する診療獣医師についても、私立5大学からの就職者が多いが、北海道大学、帯広畜産大学、岩手大学、宮崎大学、鹿児島大学などからも、卒業生のうち多くの者が産業動物を担当する診療獣医師として就職している。
- ・ 国公立大学では、首都圏の大学(東京農工大学)や大都市圏に立地する大学(大阪府立大学)で、産業動物を担当する診療獣医師を進路に選ぶ者が少ない傾向。
- ・ 私立大学を卒業して診療獣医師になる者の多くは、小動物担当の獣医師として就職しているが、近年、北里大学や麻布大学から産業動物臨床獣医師へ就職する者が増加する傾向。

③企業

- ・ 北海道大学、東京大学、東京農工大学、麻布大学など、大都市圏の大学から企業への就職者が多くみられる一方、地方の国立大学から企業への就職は少ない。
- ・ 私立5大学から企業へ就職した者の割合が全般的に低いが、そのような中、麻布大学は近年、企業への就職実績を伸ばしている。

4. 大学の教育環境と進路動向の関係

①産業動物診療獣医師になる者の割合が高い学校

<北海道大学>

- 授業科目「生産獣医療学演習」において、道内のNOSA Iと協力して、獣医師と酪農家・畜産家との関わりを体験する機会を提供
- 農業共済システムや産業動物の管理技術について学ぶことを通じ、疾病予防や生産性向上など、実際に農家を指導できる力の育成を推進

<帯広畜産大学>

- アドバンス教育において、実際に馬や牛を使って臨床的に重要な疾患に関する手技や、産業動物の取扱いに必要な麻酔法などについて実習する機会を確保
- 産業動物臨床を担当する教育診療要員を9名配置

<岩手大学>

- 病院組織が大動物診療科と小動物診療科に分かれており、5名を大動物を担当する教員として配置
- 「農学部附属動物医学食品安全教育研究センター」を設置して食料動物の臨床および家畜衛生から食の安全に至る一貫教育を実施

<宮崎大学>

- 大動物向けのCTシステムやX線診断装置、全身麻酔装置など、大動物用の高度診療機器を整備し、地域の中核施設としての機能を発揮
- 産業動物飼育について学ぶ「畜産学実習」を3年生で実施し、県内のNOSA I施設に泊まり込んで農家の検診などに随行する「産業動物臨床実習」を5年生で実施するなど、実践教育を必修科目に指定

<鹿児島大学>

- 我が国唯一の馬診療施設である「軽種馬診療センター」を平成20年に設置
- 「総合臨床実習Ⅰ」では、教員に帯同して県内・近県の農場に赴き、二次診療や特殊診療を実地に体験

<酪農学園大学>

- 附属動物病院の医療部門の組織が伴侶動物と生産動物に分かれており、産業動物診療に対する教育組織が十分に整備
- 参加型実習を踏まえて、5年生後期には内科、外科、繁殖科の計4科を2週間ずつでローテーションする全科実習を実施

②小動物診療獣医師になる者の割合が高い学校

<東京農工大学>

→臨床分野の担当教員・診療スタッフの多くを伴侶動物診療分野に充当

<鳥取大学>

→動物医療センターにおける診療の様子を、教員による解説を聞きながら学生がリアルタイムに視聴できる仕組みを導入し、各症例に対する理解増進を図る

<山口大学>

→伴侶動物診療に当たる教員や動物看護師を増員するとともに、動物病院の増改築を実施し、学生がより多くの症例に触れられるよう工夫

<大阪府立大学>

→附属獣医臨床センターの組織上、診療部門が明確に区別されていると共に、多くの診療スタッフ数を確保

→先端治療装置を導入している附属獣医臨床センターの活動に学生を参加させることで、高度先端獣医療の実際に触れられるよう工夫

<北里大学>

→診療担当教員1名あたり数名の学生グループに分け手小動物臨床実習を実施

→附属病院では、臨床現場で遭遇する可能性の高い基本的な疾患から高度医療まで、幅広い症例に基づく教育を実施